

参考資料

1. この資料は、ここにあります → <https://okana2ki.github.io/1110.pdf>
2. [デザイン思考の資料](#)
3. [生成 AI 利用プログラミング](#)



I. 筋トレアプリ

A) デザイン思考で開発

1. 事実確認から気持ちや考えの把握、共感へ
 - (筋トレをしたいと思っている人、または、筋トレをしている人は一般的に・・・と考えるのではなく、) ある特定の人が、どのような目的で／どのように感じて／どのように考えて、筋トレをしている／したいのか、本当の目的は別にあって筋トレはその手段なのか（たとえば、もてたいとか）、いつ筋トレしている／したいのか、どこで筋トレしている／したいのか、どれくらいの時間している／したいのか、どれくらいの頻度でしている／したいのか、誰としている／したいのか、どの筋肉を対象にしているのか、筋肉をどうしたいのか？痩せたいのか？お腹をへこませたいのか？どんな気持ち／気分で筋トレしている／したいのか、などなど、十分にインタビュー／観察／検討しましたか？
 - その対象とした人が、どのような問題を抱えているか（その人自身が気づかない問題も含めて）、どういう価値観をもっていて、現状をどう捉えていて／感じていて／考えていて、将来どうしたい／どうありたいと思っているのか、十分にインタビュー／観察／検討しましたか？
 - トレーニングの現場に立ち会って、または、トレーニングしたいができない現場に立ち会って、観察／インタビューしましたか？
2. 問題設定とインサイト

問題設定：○○さん（対象とした人）は、○○○○する方法が必要だった。

驚いたことに／なぜなら／でも・・・（一つ選ぶ）、○○○○○○○○○○（インサイトをここに書く）

3. ○○さんのニーズを満たす、驚くべきアイディアを5つ絵にしましょう。
4. ○○さんにアイディア（解決策）を共有して、フィードバックをもらいましょう。
5. フィードバックを反映した新しい解決策を考案しましょう。
6. ラピッドプロトタイプ（「[生成 AI 利用プログラミング](#)」を参照）を作りましょう。AIが使えるなどところ（下記参照）はありますか？
7. ○○さんにプロトタイプを見せて／現場で使ってもらって、フィードバックをもらいましょう

8. 前のステップに戻って（必要なところに戻る）、繰り返す

B) AI が使えそうなところは？

→ 生成 AI と相談すると、いろいろ候補を挙げてくれます : [ChatGPT - AI 活用筋トレアプリ](#)

II. 旅行先で食べたいものを探すアプリ

A) デザイン思考で開発

一番目のテーマと同様ですが、それに加えて・・・

- たとえば「食べログ」ではどこが不満／不便？紙のガイドブックではどこが不満／不便？

B) AI が使えそうなところは？

→これも生成 AI と相談すると、いろいろ候補を挙げてくれますが、[Google AI Studio でのバイブルコーディング](#)でも、Google map からデータを取得できるので、レストランの情報を利用したアプリが手軽に（最初のプロトタイプは 10 分もあれば）構築できます。レストラン情報などの取得だけなら無料ですが、マップ表示をアプリ上にするためには、従量制の料金がかかるはず。

III. まとめサイト

A) デザイン思考で開発

1 番目のテーマと同様です

B) AI が使えそうなところは？

「AI によるまとめサイト」と Google 検索したときの、「AI による概要」です：

AI によるまとめサイトは、

ウェブ上の情報や SNS での話題などを AI（人工知能）が自動的に収集・要約してコンテンツを作成するサイトです。情報の効率的な提供が可能になる一方で、著作権や情報の正確性などの課題も存在します。

仕組み

AI によるまとめサイトの多くは、以下のような仕組みで動作しています。

- **情報収集:** クローラーや API を利用して、ウェブページや SNS（例: X のリアルタイム検索）から特定のキーワードや話題に関連する情報を自動的に収集します。
- **テキスト生成・要約:** 収集したテキストデータは、大規模言語モデル（LLM）などの生成 AI 技術を用いて、自然な文章で要約・整理されます。
- **コンテンツ作成:** 要約された情報をもとに、記事やページとして自動的にレイアウト・公開されます。

現状と課題

AIによるまとめサイトの現状と課題には、以下のような点が挙げられます。

- **効率化と情報量:** AIがコンテンツ生成を担うため、従来人手がかかっていた情報収集や記事作成の工程が大幅に効率化され、大量の情報を迅速にまとめることができます。
- **著作権問題:** 他人の著作物を無断で転載したり、酷似した内容を生成したりすると、著作権侵害にあたる可能性があります。引用の範囲や条件に配慮する必要があります。
- **情報の正確性・独自性:** AIが生成する情報には、学習データの質やバイアスに起因する誤情報が含まれる可能性があり、情報の正確性の保証が課題となります。また、収集した情報をそのまま要約するだけでは独自性が低くなりがちです。
- **人間による確認の必要性:** AIによる自動生成後も、人が内容を調整・確認し、情報の信頼性を担保するプロセスが重要です。

具体例

Google検索のAI Overview (AIによる要約表示機能) や、Yahoo!リアルタイム検索の「SNSのバズまとめ」機能などは、この技術の応用例として挙げられます。

AI技術の進化と並行して、法整備やガイドラインの策定も進められており、今後の動向が注目されています。

IV. イベント GO! GO! GO!

A) デザイン思考で開発

1番目のテーマと同様です

B) AIが使えそうなところは？

→ 生成AIと相談すると、いろいろ候補を挙げてくれます→ちょっと試してみたのですが、出てきた案はいまひとつでした。いろいろプロンプトを工夫してみて下さい。AI機能にこだわらず、「アプリ+リアルの融合」路線とかの方が、面白い案が出るかも？？

V. 認知機能のチェックアプリ

A) デザイン思考で開発

1番目のテーマと同様ですが、それに加えて・・・

- 認知機能AIチェックツール「ONSEI」（江東区）で不満なところ／足りないところは、どこですか？これと何がどう異なりますか？
- 他にも CADi2（キャディツー）（箕面市）、かんたんブレインチェック（明治安田生命）、録るだけ認知機能チェック（三井住友海上あいおい生命）、などなど

B) AI が使えそうなところは？

→ 生成 AI と相談すると、いろいろ候補を挙げてくれます

VI. 片付けアプリ

A) デザイン思考で開発

1 番目のテーマと同様です

B) AI が使えそうなところは？

→ 生成 AI と相談すると、いろいろ候補を挙げてくれます → 相談例

VII. バーチャル海外旅行アプリ

A) デザイン思考で開発

一番目のテーマと同様ですが、それに加えて・・・

- Meta の「Wander」 のいいところはどこで、不満な点／足りない点は何ですか？ → これとは、何がどのように異なる？
- 「ANA GranWhale」は、戦略の見直しや事業の立て直しも検討していたものの、黒字化には長い時間を要することが想定されることから事業継続が困難と判断し、2025 年 2 月 28 日をもってサービスの終了を決めた。→ これとは、何がどのように異なる？
- 他にも、Google Earth VR, Ascape VR, YouTube VR, …

B) AI が使えそうなところは？

→ 生成 AI と相談すると、いろいろ候補を挙げてくれます

たまたま私が Google AI Studio で最近作っていたアプリが観光関連だったので、リンクを張っておきます → どこでもドアとタケコプターと翻訳こんにゃく：どこでもドアで海外に行って、翻訳こんにゃくでしゃべってみよう。タケコプターも試してみてね。

VIII. 弁当注文アプリ

A) デザイン思考で開発

1 番目のテーマと同様です

B) AI が使えそうなところは？

→ 生成 AI と相談すると、いろいろ候補を挙げてくれます → ちょっと違う？観点を加えて AI にお願いしてみました